

教育 子午線

Kyoiku-Shigosen

October, 2015
vol.39



◎教育最前線

発達障害支援& インクルーシブ教育

◎研究レポート

ブログ型学習環境におけるコメント記入のための
テキストマイニングによる教師支援

◎ワタシのイチオシ

◎うれしの掲示板

はじめに

平成19(2007)年に障害児教育が「特別支援教育」に変わりました。この時の一番の変化は、通常の学級で学んでいるいわゆる発達障害のある子どもが支援の対象になったことです。そして今、「インクルーシブ教育」の波が少しずつ学校現場にやってきました。

特別支援教育では、子どもの教育ニーズを踏まえた指導や支援を大切にしてきました。そして、これからは通常の学級でも子どもそれぞれの子を尊重した教育の土台になっていきます。すでに、「特別」を外して支援学校や支援学級という名称に変えている地域もあります。「特別でない」特別支援教育が広がっていくことが、インクルーシブ教育の時代に大切になります。

発達障害のある子どもへの支援

発達障害のある子どもは、本来、学ぶポテンシャルを持ってはいるのですが、通常の学級での学びにくさを抱えています。注意力が続かなく、ため、先生の話を注意して聞くことができません。話し言葉の理解が特に苦手な子どももいます。授業中、

しゃべり続ける、離席することもあります。静かな時に大声で先生に質問することもありません。板書を写すのも苦手、連絡帳もきちんと書けないかもしれません。このような彼らにとつて、通常の学級に在籍しながら個別指導を受けることができる通級指導教室で、あるいは特別支援学級の弾力的運用でニーズに配慮した指導を受ける機会ができたことは、画期的なことでした。

これからの時代の教育には、みんな同じように一律という方針から、それぞれの子どもを尊重して、苦しさへの配慮と得意の活用を図ることが求められます。ルールを身に付けてもらうことは大切ですが、ここに苦しさを持っている子どももいます。例えば、落ち着きがなく、動き回ることが多い子どもは、授業中に離席しがちで、注意されることがしばしばです。ここでは、子どもへの見方とクラスでのルールを捉え直してみるの、いかがでしょうか。彼らが元来、動きたいのであれば、授業中に資料の配付や必要なものを取ってくることを頼むというのではどうでしょうか。彼らは、実は、運動できた方が覚醒度は上がり、注意力も良くなります。

最近、関心が高まっているのが、通

常の学級における授業づくりや学級経営に特別支援教育の視点や工夫を取り入れていくことです。昔から「教師は授業で勝負」という言葉があるように、わが国では授業研究が盛んに行われてきました。この伝統を生かして、発達障害のある子どもに主体的・能動的に学ぶという意欲を持たせる授業づくりが大切です。アクティブラーニングです。要支援の子どもが半分近くいるクラスで、普段の授業の時には手遊びをする、おしゃべりが絶えない状態だったのが、「生き物ふしぎクイズ」を作った友だちに出してみようという授業の時は、全ての子どもが熱心にクイズ作りに取り組み姿勢がありました。今、「分かる」から学びを「楽しめる」授業づくりが求められています。

インクルーシブ教育へ向けて

平成25(2013)年度から「就学基準に該当する障害のある子どもは原則特別支援学校に就学する」という仕組みが改められたことで、本人の教育ニーズや学校の施設整備状況などを総合して、入学先を判断することになりました。また、小・中学校に在籍していても、その途中で特別支援学校に転学することも認め



特別支援教育コーディネーターコース教授
特別支援教育モデル研究開発室室長
うのひろゆき
宇野宏幸
専門分野/発達の認知神経心理学



↑特別支援教育モデル研究開発室での地域トップリーダーに関する検討

教育最前線

発達障害支援&インクルーシブ教育

特別支援教育が動いています。発達障害のある子どもへの支援・配慮が、通級指導教室の拡充、通常の学級での授業工夫などによって進展しています。さらに、インクルーシブ教育へ向けての体制整備も始まりました。学びの多様性を尊重した、全ての子どものためのクラスづくりが、今、求められています。

くめられるようになりまし。このよ
うに、学校への入学や転学に「柔軟」
に対応できるようになっていますの
で、小・中学校で不応の状態が続
けば特別支援学校への転学も選択肢
の一つと考えることができます。

このような仕組みの変化は、わが
国が国連の「障害者の権利に関する
条約」を批准して、発効させたこと
に関連します。教育においては、「一
般的な教育制度から排除されない」
とともに「個別化された支援措置が
とられること」という内容が含まれ
ています。この趣旨から、本人や保
護者から希望があった場合には、地
域の小・中学校で学ぶことが選択肢
として提供されなければなりません。
ただし、例えば、全ての小・中学
校にエレベーターが設置されている
という状況ではありませんので、車
椅子で移動しなければならぬ子
どもの場合は、地域の施設など教育
環境の整備状況も考慮されます。

文科科学省が進めている「イン
クルーシブ教育システム構築」では、
「同じ場で共に学ぶ」ことが謳われ
ています。特別支援学校と小・中学
校との「交流及び共同学習」は、障害
のある子どもとそうでない子ども
が、共に活動することで理解し合う
ことを目指しています。さらに、こ

の理念が進化していくと、

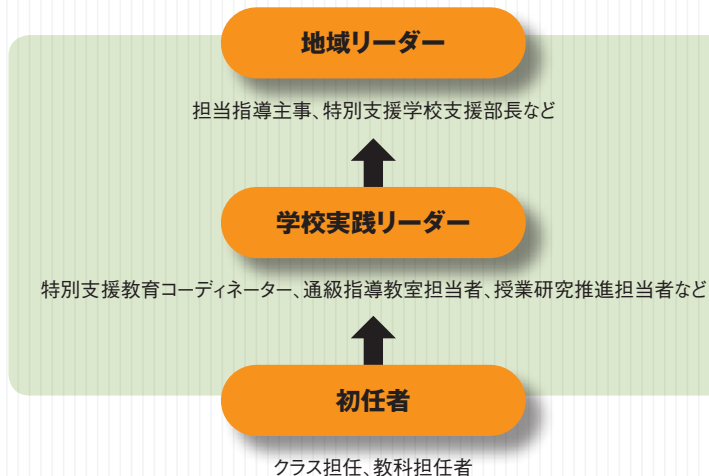
通常の学級という「同じ
場」へ障害のある子ども
もインクルーシブ(包容)
されていくことになりま
す。諸外国でのクラスの
様子を見ると、同じ授業
場面でも子どもたちの学び方
に応じてパソコンやタブ
レット端末で個別的に学
習していることがありま
す。また、一斉授業で同
じ知識を学ぶというより、
捉え方や考え方について、
それぞれの子どもの得意
を生かした役割が与えら
れているようです。

これから、わが国におけるインク
ルーシブ教育の姿を具現化する中
で、これまでの学校教育の在り方も
大きく問い直されることになるで
しょう。

兵庫教育大学の 取り組み

本学のプロジェクトで、特別支援
教育モデル研究開発室(モデル研)が
設置されています。モデル研は、特別
支援教育を推進する学校のミドル
リーダー(コーディネーター、通級指
導教室担当者、授業研究推進担当者

【図】特別支援教育を推進するリーダーの育成



など)や地域のトップリーダー(指導
主事など)の人材像や育成プログラ
ムに関する研究開発を行っています
【図】。地域特性を踏まえて特別支
援教育の構想をデザインして、それ
を動かす人材が必要とされています。
また、平成28(2016)年度か
ら大学院の特別支援教育コディ
ネーターコースは「発達障害支援実
践コース」へ衣替えして、総合的に学
校での発達障害支援を担うミドル
リーダーの人材の育成を図ってい
ます。障害科学コースも、インクル
ーシブ教育の充実へ向けた取り組みを
行っています。

合理的配慮と合理的でない配慮



特別支援教育コーディネーターコース教授
樋口 一宗
ひぐち かずむね
専門分野/発達障害児教育学

合理的配慮

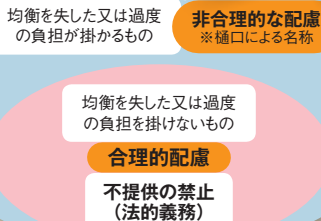
「合理的配慮」とは、「(前略)学
校の設置者及び学校が必
要かつ適当な変更・調整を行うこと
であり、障害のある子どもに対し、
その状況に応じて、教育を受ける
場合に個別に必要とされるもの」
、「学校の設置者及び学校に対して、
体制面、財政面において、均衡を失
した又は過度の負担を課さないも
の」です*。

教室で、障害のある子どもにとっ
て個別に必要とされる配慮(変更や
調整)としては、例えば、読み書き等
に困難がある場合に授業や試験で
のタブレット型端末等の使用を許可
することなどが考えられます。

これら想定される配慮のうち、そ
れを行う主体である学校や設置教
育委員会などに対して「均衡を失
した又は過度の負担を課さない」範
囲でできるものが「合理的配慮」で
す。合理的であるか否かを判断する
のは、提供する側である学校や設置
者です。具体的場面や状況に応じ
て総合的・客観的に判断します。

この定義の前半部分は
「配慮」について、後半部分
は「合理的であると判断さ
れる条件」について述べられ

想定できる配慮



過重な負担に当たると判断
した場合は、その理由を説
明するものとし、理解を得る
よう努めることが望ましい。

均衡を失した又は過度
の負担を掛けないもの

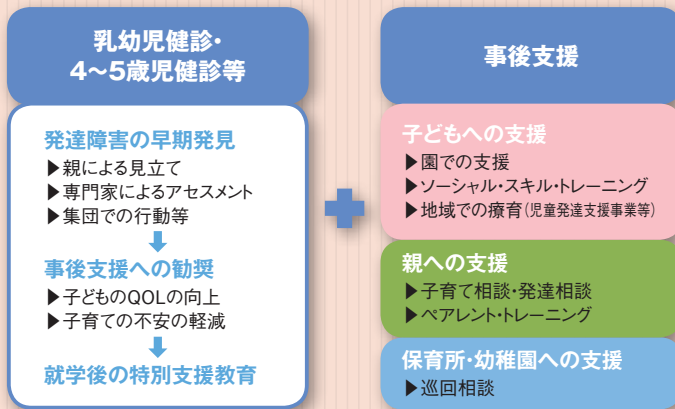
ある子どもだけに対して配慮(変
更や調整)を行うことは学級内に
波紋をもたらすかもしれません。し
かし、同様の困難のある子どもたち
全てに対して配慮をしたらどうで
しょうか。「できる範囲で対応を工
夫すること」「そう考えれば、それほ
ど「特別なこと」には感じられないは
ずです。

*中央教育審議会「共生社会の形成に
向けたインクルーシブ教育システム構築
のための特別支援教育の推進(報告)」

発達障害支援のトピックス

早期発見・早期支援

【図】発達障害の早期発見・早期支援の概念図



障害科学コース教授
たかのみゆき
高野美由紀
専門分野／障害児病理・発達医学

何らかの障害があると疑われる場合には、早期発見してタイムリーに適切な環境や支援を提供すること、それにより子どもの発達を促し、二次障害を予防していくことが求められます。発達障害についても、学校等での不適応を予

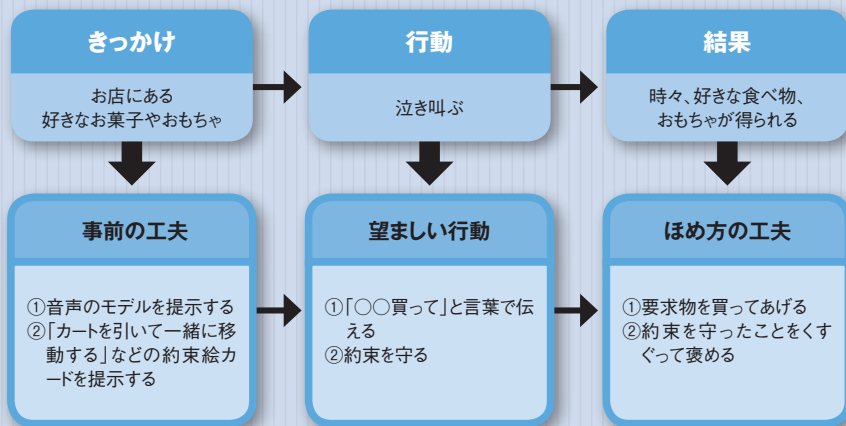
防するため、多くの地域において母子保健法で定められた乳幼児健診という優れた健診制度を軸とした早期発見と、その後フォローしていく事後支援の仕組みをつくってまいりました。

子育てをしていく中で親が見立てる子どもの発達、保健師、医師、心理士等による子どものアセスメントを基に判定し、子育て相談・発達相談、地域での療育や医療機関の受診などの事後支援につないでいきます。その際、親の子育てへの不安に添い、親子の一步をそと後押しするような細やかな心配りが、事後支援を利用する決め手になることもあります。

発達障害を意識した場合、保育所・幼稚園などの就学前の集団場面での子どもの行動やコミュニケーションの様子から、初めて支援の必要性が明らかになることもあります。地域によっては、4～5歳児の健診・発達相談を採用している所や、園への巡回相談の充実を図っている所などがあります。いずれも、集団での子どもの様子を含めて支援の必要性を判断し、就学後の特別支援教育に支援のパトンをつないでいくことが求められています【図】。

保護者と「共に」支える

【気になる問題】お店で何かを買わないと気がすまない



インクルーシブ教育システム構築のために必要な特別支援教育は、学校



特別支援教育コーディネーターコース准教授
おかむらじょうじ
岡村章司
専門分野／発達障害臨床心理学 応用行動分析学

と家庭との連携を前提としています。発達障害の特徴は環境や発達段階により大きく変化し、個人差や状態の幅も大きいため、保護者は障害の特性を理解し難くストレスを高めることがあります。そのため、保護者にとって、心の揺れに寄り添い、子どもの成長プロセスと一緒に向き合います。具体的な問題について保護者と相談していくことも大切な子育て支援となります。例えば、買い物に行くたびに好きなものを買わないと子どもが泣き叫ぶといった問題。最初に、泣き叫ぶのではなく言葉で「○○買って」と言う、カートを引くといった約束の行動を取るなどの目標を設定します。次に、言葉で伝えられるよう手掛かりとなる音声のモデルを提示する、約束を守ることができたらくすくす褒めるといった、子どもへの適切な関わり方を具体化します。このように、子どもの望ましい行動を促すために、保護者が関わり方を工夫したり、環境を整えたりしていきます。主体的で楽しい子育てを実現するために、支援者は保護者が無理なく行える方法を共に考え、子どもの良さや強みを共に確認していくのです。

発達障害のある子どもに対する支援の体制や関係者が留意するべきことなどを紹介します。

教育最前線

世界のインクルーシブ教育

みんなが手話で話す教室

↓小学校のバイリンガルクラス。教室には常に手話と音声語(イタリア語)があります



イタリアの事例



障害科学コース教授
とりこえたか
鳥越隆士
専門分野/障害児心理学

初 めてその小学校の教室に入った時、あちらこちらでみんな手話を話していて、誰が聴覚障害児で、誰が健聴児が分かりませんでした。担任の先生が「今日は日本からお客さまが…」と話し始めると、さっと横に手話通訳がつかれます。教室に聾者の先生も手話の指導にやってきました。そのときは、聴覚障害児も健聴児もみんな手話で、声は使いません。イタリアではインクルーシブ教育

が先進的に進められ、1970年代に全ての障害児学校が閉鎖され、障害のある子どもたちは健常の子どもたちと通常の学校で一緒に学ぶようになりました。ただそれでは、聾学校にいて手話を使っていた聴覚障害児たちは、孤立してしまいます。そこでこのバイリンガルプログラム(イタリア語とイタリア手話)が始まりました。全ての授業に手話通訳が付き、聴覚障害児も健聴児も手話を学びます。手話を使うクラスは地域の幼稚園から中学校までの全ての学年にあり、聴覚障害児たちは(健聴児も)この間一貫して手話を学び、使うことができます。このプログラムがコサト市(ピエツラ県)という小さな街でスタートしてもう20年になります。この評判を聞き、遠方からも多くの聴覚障害児が来て学んでいます。

手話は聾者の社会が生み、育ててきた言語です。昨年わが国で批准された国連「障害者の権利条約」にも、手話が言語で、聴覚障害児の教育にとって大切な言葉であることが明記されています。「手話」と「インクルージョン」を共に大切に考える教育の試みが広がっています。

中学校社会科の授業における取り組み

生徒の多様性を保障するための配慮

1	座席の配慮
2	配付資料の難易度の調整
3	課題の調整

内容は、北京オリンピックを題材に社会体制を論じたエッセイをグループで読み解くというもの。授業には多様性を保障するための配慮がありました。

第1は、座席の配慮です。多くの生徒が5〜6人1グループでテーブルを囲んでいましたが、数人は1人で座っていました。社会科教師によると、「学習することが目的なので、グループで学んでも1人で学んでも構わない」とのことでした。特別支援学校の生徒とTAが座るグループには、通常学級で支援が必要な生徒も座り、TAの支援を受けていました。第2は、配付資料の難易度の調整です。同じ内容で、写真の枚数、文字数、文字の大きさが異なるプリントが2種類用意されていました。易しいものは、特別支援学校の生徒だけではなく、通常学級の生徒も使用していました。第3は、課題の調整です。取り組む課題は、YESかNOで答える課題から、「なぜ」まで深めて答える課題まで用意されており、生徒が選択しているようでした。

ここで挙げた座席の配慮、配付資料の難易度の調整、課題の調整といった工夫は、特別支援学校の生徒だけでなく、通常学級の生徒も対象としたものであることが重要なポイントといえそうです。それを下支えするのは、ロンドンで何度も耳にした「カリキュラムへのアクセス」つまり、どの子どもも学習内容を享受できるようにすることを目指す、という考え方であると思いました。

イギリスの事例



特別支援教育コーディネーターコース准教授
いしばしゆきこ
石橋由紀子
専門分野/特別支援教育学

昨 年訪問したロンドン郊外の中学校には、日本で例えるなら特別支援学校が敷地内に併置されていました。特別支援学校の生徒は、週に一度は中学校の授業を受けることになっています。見学した3年生の授業では、特別支援学校の生徒2人も含め、35人ほどの生徒が学んでいました。教師は、社会科教師1人と特別支援学校のTA(ティーチングアシスタント)1人で

は1人で座っていました。社会科教師によると、「学習することが目的なので、グループで学んでも1人で学んでも構わない」とのことでした。特別支援学校の生徒とTAが座るグループには、通常学級で支援が必要な生徒も座り、TAの支援を受けていました。第2は、配付資料の難易度の調整です。同じ内容で、写真の枚数、文字数、文字の大きさが異なるプリントが2種類用意されていました。易しいものは、特別支援学校の生徒だけではなく、通常学級の生徒も使用していました。第3は、課題の調整です。取り組む課題は、YESかNOで答える課題から、「なぜ」まで深めて答える課題まで用意されており、生徒が選択しているようでした。

インクルーシブ教育は通常学級の改革であるといわれます。では、インクルーシブ教育の先進国では、どのような授業が展開されているのでしょうか。イタリアとイギリスの授業の様子を紹介します。

◀特別支援教育モデル研究開発室のイベントについてはP12参照



もり ひろ こう いち ろう
森廣浩一郎

行動開発系教育コース
教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費助成事業による助成を受けた研究を紹介いたします。同助成事業は、全ての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は、一人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3～5年です。

（平成24～26年度科学研究費助成事業・基盤研究に採択）
**ブログ型学習環境におけるコメント記入のための
テキストマイニングによる教師支援**

大

量に蓄積された文書（テキスト）の集合から有用な情報を採掘（マイニング）する方法としてテキストマイニングという技術があり、さまざまな活用が試みられています。類似する方法で文書を分析するアイデアは、昔から

紙文書を対象として試みられることもありましたが、集計作業に多大な時間と労力を要するため現実的な手法とは言えないものでした。しかし、

計算機上での自然言語処理技術の発達に伴いこのような分析が実用的になり、近年では教育に関する文書を対象とした研究も行われています。

私たちの研究室では、図書

の推薦文を児童が記入する

ブログ型の学習環境を用いた

授業について実践的に研究してきました。今回の研究では、

教員が児童へ所見（コメント）

を記入する部分に注目し、

テキストマイニングを活用した

教員の支援について検討しました。ここでは、その一環で実

施した、小学校教員が記述し

た所見文書の一つである通知

表の所見欄での分析について

紹介します。

所見欄の記述は「グラフ」の

ように校務の中でも教員の負担

感が高く、その理由として

児童の様子を記述する適当

な言葉を思い付かないという

ものが見られます。教職経験

を積み、何度も所見を書いて

いると、記述パターンが固定化

して単語のレパートリーが広

らず、偏りが生じやすくなり

ます。このような偏りとして、

他の教員と比較して特に多用

しがちな単語があるため、他

の人の比較において、その人

が多く使用する単語を特徴

単語と呼ぶことにしました。

本研究では、所見データに

対してテキストマイニングを利

用した教員間比較を行い、教

員ごとの特徴単語を抽出す

るとともに、その使用実態を

教員自身が手作業で抽出し

た多用しがちな単語と比較し

ました。その結果、特徴単語

は所見でより偏った使い方が

されており、多用しがちな単

語を教員が自力

で見つけるのは困

難なことが確認さ

れました。次に、教

員本人の特徴単

語を提示すること

で、自分が偏って

使用している具体

的な単語に気付

くことができ、そ

の固定化を避け

られる可能性が確

認されました。ま

た、他の教員の特

徴単語を提示す

ること、その中

から自分の所見

で今後使ってみ

たい新たな単語を見

つけ出し、レパート

リーを広げるため

の気付きを与える

ことができました。

これらのことから、

所見記述の支援

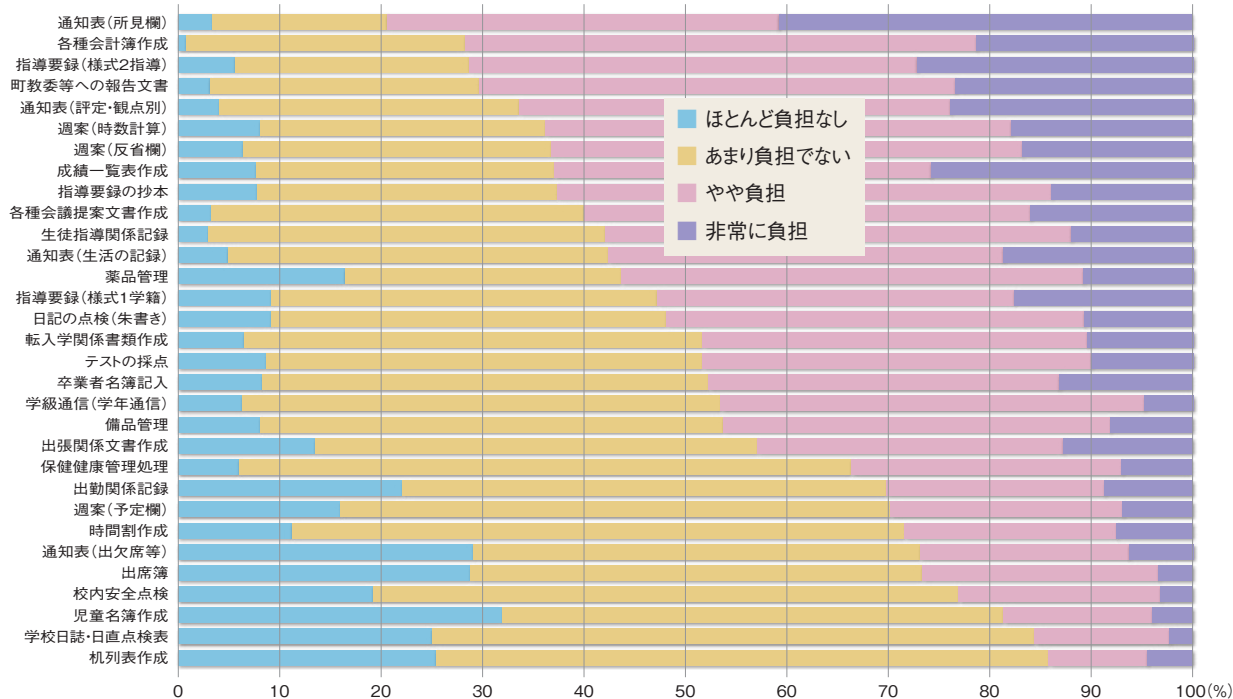
機能をテキストマ

イニングで実現で

きる事が明らか

になりました。

【グラフ】校務の負担感(全学校) n=176 2012年5~6月実施



英語教育にお勧め

さまざまな英語の絵本を集め、毎晩まな娘のケイリーちゃんに読み聞かせている。「絵本はいろんな国の文化を学ぶことができるし、絵を楽しんだり単語や決まった表現を覚えたりとたくさんいいことがあります」。インターナショナル保育所では1日3回読んでいたといい、「小学校の授業でも、もっと使わなきゃ」と日本の教育現場で活用されていない現状を残念がっている。



まな娘の成長を記録中

趣味は旅先での写真撮影。最近では、被写体はケイリーちゃんばかりに。「2歳の今が一番かわいい時期かも。成長をずっと忘れたくない」。言葉の成長の記録も、生まれてからずっと専用ノートに残している。「私は英語だけで話し掛けています。彼女はまだ英語と日本語を一つの言語だと思っているので、両方が混ざります」。今後、言語研究に生かされればとも考えているそう。



頼りになる存在

13年前に日本語検定1級を取得し、普段は流ちょうな日本語を操るが、困ったときは電子辞書を活用する。「使う回数はだいぶ減って、今は会議の資料で分からないときに開くくらい」。ちなみに、最近検索した言葉は「躊躇」。



年中手放せない必需品

小学生の時に日焼けで大やけどを負って以来、年中日焼け止めを使っている。ケイリーちゃんも肌が白いため外出時には塗ってもらうようお願いしたところ、いくつもの保育所で断られたという。「私の国では子どもの日焼けは皮膚がんにつながるという意識が強い。日本の教員もそのことを考えるべきだと思います」



パスポートは2冊持ち

両親が英国からの移民であるため、オーストラリアと英国の2カ国のパスポートを所持している。「ビザがいる・いらぬなど、訪れる国によって使い分けられて便利。でも、実は英国のパスポートは使ったことがないです」



ただ 多田ウェンディ 講師

文化表現系教育コース
〔言語系教育分野(英語)〕

オーストラリア出身。平成8(1996)年アデレード大学を卒業。9(1997)年にALT(外国語指導助手)として来日し、CIR(国際交流員)を経て英会話学校などで英語を教える。20(2008)年にはモナシュ大学大学院修了。島根大学、姫路獨協大学で講師を務め、25(2013)年から現職。専門は応用言語学。授業は「英語コミュニケーション」(学部)、「英語アカデミックライティング」(修士課程)などを担当。

先生に質問!

Q 日本で英語を教えるようになったきっかけは?

A 大学を卒業後、最初はALTとして来日しました。これまで教える仕事を選んできたのは、皆さんの夢の実現を助けたいからです。私は大学で初めて日本語を習い、人生が大きく変わりました。その経験から、大学時代はスキルアップする上で大事な時期だと考えています。特に、兵教大では教員を目指す学生を教えられるということに、魅力を感じています。

Q その理由とは?

A 以前勤めていたインターナショナル保育所では、ほとんどの日本人の子が5歳、6歳で英検4級に合格します。幼いころは教育の影響を受けやすく、教え方一つで変わります。影響力を持つ一人が小学校の教員です。日本の英語教育を変えるにはその人材を育てることが大事で、それに関わることができると嬉しいです。

Q 講義で重視している点は?

A コミュニケーションのクラスでは、とにかく英語でたくさんしゃべることです。そのために、自分についてコメントできるようなテーマを用意しています。学生にいつも言っているのは、「Try」。返事だけでなく、相手に質問をするなど会話が続くようにすることが大事です。きちんとした文章じゃなくても大丈夫。将来学生たちが教員になったときに、「私の先生は英語をしゃべれて格好いい」と憧れられる存在になって、「もっと英語を勉強したい」という子が増えてくれたらと思います。



かわい けん じ
河合健次さん
明石市立清水小学校教諭

愛知県出身。平成3(1991)年、芸術系専修コース(美術)を卒業。25(2013)年、現任校に着任(図画工作科専科)。26年11月から4カ月間、「第6回教員南極派遣プログラム」に参加し、第56次日本南極地域観測隊に同行した。



すぎ たに よし かず
杉谷義和さん
鳥取市立修立小学校教諭

鳥取県出身。平成23(2011)年、専門職学位課程修了後、現任校に着任。今年度は4年生担任、道徳教育推進教師を務める。今年1月、著作権に関する教育実践が評価され、第10回著作権教育実践事例(CRIC)「優良賞」を受賞。



→南極日時計による24時間観測



より大きな視野で 共鳴し合う機会を

昨年参加した「教員南極派遣プログラム」では、時と色彩をテーマにした授業を昭和基地から行いました。南極の写真5千枚で構成したフォトモザイク画を作製し披露しました。写真は美しい風景、生命を輝かせる生き物たち、夢や希望を抱く観測隊員の姿であふれています。

南極では、人類は最小限の物資を持ち込んで間借りしているにすぎません。時間もその一つ。私は南極仕様の日時計を制作し、地球の底に位置する地で影により獲得されていく「時」を観測しました。

図画工作科には、ものづくりを通して他の教科・領域で学んだことを統合させる力があります。それは多様な分野の人が互いの専門性を共鳴させ、多くのプロジェクトを成し遂げていく観測隊も同様です。教員を目指す皆さんも、学校という小さなフィールドにとどまらず、より大きな視野で、さまざまな分野の人たちと共鳴し合う機会を求めてください。

→道徳の時間「著作権をテーマにした学習」の様子



大学での学びは スタート地点にすぎない

教職大学院では、2年間という限られた学びの時間をとにかく大切に過ごしました。1年目は授業づくり、学校経営などさまざまな分野について学び、2年目は著作権教育に絞った研究を進めました。幅広く学んだことで若手教員にアドバイスできる力を養い、研究を深めたことで得意分野を持つことができました。

私が大学生活で大切だと思うことは、①自分が何を学び、どんな教師になりたいのかを明確にすること、②一つ一つの出会いを大切に、クラスになることは即行動に移すことです。大学には自分を伸ばす資源があふれています。それらを有効に活用し、P(Plan)→D(Do)→C(Check)→A(Action)のサイクルを定着させると学びも豊かになります。

現在も「大学での学びをスタートと考える」という言葉を大切にしながら、教員生活を送っています。大学を卒業して5年。私の学びは続いています。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ 教育実践研究活動等に係る表彰について

8月1日、2日に仙台市で開催した第35回大学院同窓会宮城大会で、平成27(2015)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高

めた修了生が対象。今年は5人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎被表彰者(敬称略)

嬉野賞/坂口豊(1期・言語系、大阪府)、花井正樹(4期・生徒指導、愛知県)、平松清志(5期・生徒指導、岡山県)

奨励賞/酒井達哉(30期・言語系、兵庫県)、真鍋博(2期・教育基礎、愛媛県)

大

学周辺の池で釣りをしても、フナやメダカ、モロコといった日本固有種を見つけたことがなかった。「ブラックバスやブルーギルばかり釣れるけれど、日本固有種はどこにいるのだろうか」。この疑問が、今年度の「課外プロジェクト」に採択された取り組みの出発点になった。

県立高校で地理歴史科を担当する中で生徒たちの歴史離れを実感し、もつとうまく教えるすべを学びたいと今春、大学院に入学した。研究テーマは歴史授業でのICTの活用。タブレット端末を使った考えさせる授業の実践を目指し、ICTの分野に詳しい森山潤教授の研究室の門をたたいた。同研究室では毎週金曜に、兵教スチューデントファームでの農作業の時間がある。複数の野菜を栽培しており、90分間、草取りや収穫に汗を流し、時には大学裏の池にみんなで魚釣りに出掛けたりもする。その影響で釣りの魅力にすっかりはまった。「畑違いの分野ですが、それも新しい勉強だ」と思い、積極的にやらせてもらっています。ここで自然と触

れ合う楽しさを学びました」

研究室の仲間らと進めるプロジェクトでは、大学周辺のさまざまな池沼で釣りをし、そこに生息する魚や水質を調査している。教員時代に取得した気象予報士の知識を生かしながら釣りのポイントを設定。毎回、釣果を撮影し、記録に残しているが、日本固有種にはまだ出会っていない。「地元

の農家の方に聞いても、昔はよく泳いでいたけれど、近頃は全く見ないと言われました。外来種の影響で数自体が減っていて、もういないのかもしれないね」

11月の大学祭では、途中経過を展示発表する予定だ。「この辺りの子どもたちにとってブラックバスは身近な存在ですが、特定外来生物なので釣ったものを別の場所に移動させるだけで法律違反になります。知らず知らずのうちにしてしまっていることもあると思うので、啓発の必要性を感じています」と、教員の顔をのぞかせる。自身の目指す教員としての心構えと同じく、遊び心を忘れずに取り組むつもりだと笑顔を見せる。



キラリな人 SHINY PERSON

お が わ ゆ う た 小川雄太さん

大学院専門職学位課程
授業実践開発コース1年

昭和60(1985)年、神戸市生まれ。芦屋市の公立中学校を経て、平成25(2013)年から県立龍野北高校で地理歴史科を担当。27(2015)年4月に兵教大に入学し、研究の成果を県全体の地歴科教育に還元したいと意気込んでいる。気象予報士や行政書士の資格を取得するなど、勉強好きな一面も。



◎課外プロジェクトとは
学生の自主的な取り組みに対し活動資金を支援する学内制度。平成27(2015)年度は小川さんの「日本固有の生体系を守る」など5件を採択した。(P13で紹介)

大学周辺の池沼で
日本固有の魚を探索
環境保護の啓発にも
生かしたいです

～第12回(平成26年度)学生生活実態調査報告書から検証～

兵教生と昼食

ランチ代は節約傾向
ワンコインが主流

大学食堂の利用者が多く全体の3割(30.6%)を占める一方、自宅から弁当等を持参する学生も26.0%に上る。昨今の「弁当男子」など弁当ブームの影響も考えられるが、「学生寄宿舎や下宿先に帰って作ったもの、買い置きたパンなど」が19.8%を占めるなど、学生が弁当や自炊によって節約を図っていることも推測される。

「昼食に使える金額」は、501円以上使う(余裕のある学生は大学院生(昼間)が19.1%、学部生が17.4%と、僅差ではあるが大学院生が上回った。大学院には現職の教員も多く、経済的余裕があるためと考えられる。とはいえ、500円以下が大半を占めている事実(学部生81.9%、大学院(昼間)77.5%)から、兵教生の昼食も「ワンコイン」が基準となっているようだ。

おいしい&
リーズナブル

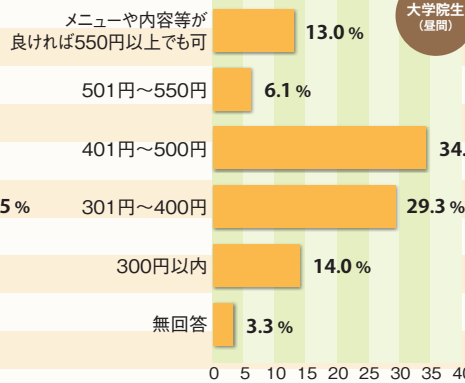
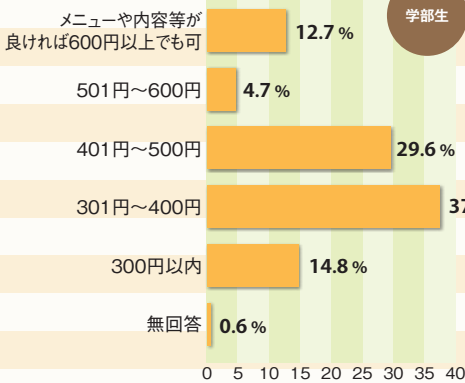
ほとんど毎日、昼食にベーカリーカフェのパンを購入しています。とてもおいしく食べ応えがあるのにリーズナブルだからです。どれもお薦めですが、私のお気に入りにはちくわとチーズの相性が抜群の「ちくわの磯べっちー」と、角切りリンゴとシナモンの甘さ、もちもちの食感がたまらない「もちもちドーナツ」です。パンの他にプリンやケーキなども売っています。皆さんもぜひ立ち寄ってみてください。



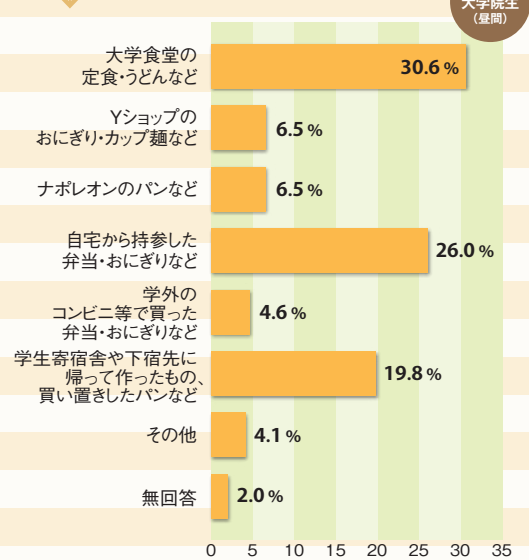
昼食に使える金額
300円～400円

やま もと ゆう か
山本優佳さん
学校教育学部
言語系コース1年

「昼食に使える金額」は主にいくらまでですか



「昼食」は主に「何を」食べますか



おいしい料理が盛りだくさんの兵教大の学生食堂。私のお薦めは「兵教ど〜ん」です。ほかほかご飯の上に鳥のから揚げと熱々の鶏そぼろ、トロトロの半熟卵が載っていて、ボリューム満点。運動後など腹ペコなときにちょっとぜいたくして大盛りを頼めば、翌日までおなかいっぱいで、お財布にも優しいです！友達とおしゃべりしながら楽しく食事することも、おいしいと感じるスパイスになっているのかもしれない！

ボリューム満点！
兵教ど〜ん！



昼食に使える金額
500円

しむら こうや
志村幸哉さん
専門職学位課程
小学校教員養成特別コース1年

交通手段がなく、部活にも入っていない自分が趣味と実益を兼ね、時間を有効利用できるものとは考えた結果、僕の答えは弁当作りでした。今から料理の楽しみを知っていれば、将来、子どもたちに魅力ある食育を展開できると思います。幸いにも寮のキッチンでは自由に使い、買い物に便利なカレッジバスも無料で利用できます。大学生のうちに生活力を身に付けておくのもいいのではないのでしょうか。

僕が弁当を作る理由



昼食に使える金額
500円

たかはし なおひろ
高橋直大さん
学校教育学部
総合学習系コース3年

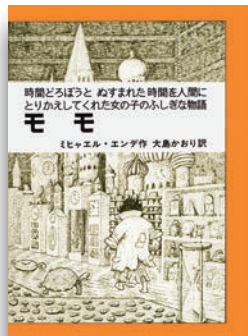
アコースティックの曲に癒やされます

「アコースティックギターだけでこんなに素晴らしい曲を奏でることができるんだ」と思ったと同時に、何とも言えない落ち着きを感じ、心が温かくなりました。疲れたときや、気持ちを落ち着かせたときに、ぜひ聴いてみてください。



秦 基博「evergreen」
初回生産限定盤:AUCL-30022~23/通常盤:AUCL-167~8
発売元/Ariola Japan/AUGUSTA RECORDS

ミヒャエル・エンデ 大島かおり訳
「モモ」
岩波書店



現代社会を忙しく過ごしている大人の皆さんは、時間の価値を考えたことはありませんか。また、そのような心の余裕はありますか。忙しく過ごしている大人に、警鐘を鳴らす作品です。

心の余裕を持つことの大切さに気付かされます

映画「STAND BY ME ドラえもん」の主題歌で有名な「ひまわりの約束」を歌う秦基博さんの曲がたくさん入ったアルバムです。

きぬ がわ ゆう
衣川優さん
学校教育学部
生活・健康系コース4年



バナナマンの仕事(笑い)に対する姿勢 教員として忘れずにいたい

ネ タの面白さもさることながら、どれだけ忙しくても毎年ライブを行い、しかも全一から作る新ネタばかり。この精神に私は影響を受けています。教員も忙しい中、昨年使った教材をそのまま使い、やり過ぎすこともあるのではないのでしょうか。

苦しい時だからこそ、職業人としてプライドを持って、自分を高めていく姿勢。きっとバナナマンからいろいろなことを学べるはずですよ。今年のライブ「Life is RESEARCH」もDVDになると思うので、こちらも乞うご期待！

むら た しん た ろう
村田晋太郎さん
修士課程
行動開発系教育コース2年



バナナマン
「Love is Gold」(DVD)
発売元・販売元/ホリプロ

ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、
行きつけのスポットや思い出の冊子。
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。

兵庫県立フラワーセンター
加西市豊倉町飯森1282-1
☎0790-47-1182
9:00~17:00(入園は16:00まで)
水曜(祝休日の場合は翌日)、12月28日~1月1日休



あ べ せん すい
阿部千翠さん
専門職学位課程
授業実践開発コース2年



じょう そ たん
常甦丹さん(中国)
修士課程
教育コミュニケーションコース1年



私のイチオシスポットは加東キャンパスから車で約25分、加西市にある県立フラワーセンターです。園内には大きな噴水があり、その周りにはいろいろな種類の花が咲いています。さらにその花々を囲むように緑の松林があり、日常の喧噪を忘れて美しい自然を楽しむことができます。

また、温室には南国の珍しい植物や花が咲き誇り、自然の神秘的な魅力に心が癒やされます。園内にはショップもあり、花々を買って帰ることもできます。花や植物に囲まれ自然に親しみたいとき、ぜひ友達を誘って行ってみてください。

緑の回廊や花の海が広がります

※「うれしの」とは、加東キャンパスや附属学校などが集まる丘陵地「嬉野台」にちなみます

催し

教材文化資料館 平成27年度後期展 フォーカス!「道徳」学教市

道徳の時間が、小学校は平成30年度、中学校は31年度から「特別の教科 道徳(道徳科)」として教科化されます。後期展では、教科化に至る過程や道徳教育の歴史の変遷、文部科学省配布の教材「私たちの道徳」の内容、授業実践の在り方などを紹介。今後の道徳について語り合える企画となっています。

→「私たちの道徳」小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校 文部科学省 平成26年(4冊)
「兵庫県道徳副読本」小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校 兵庫県教育委員会 平成27年(4冊)



←道徳教材ハット人形
左/「ティラノサウルス ティラポン」ホブラ社 平成18年
右/「アンキロサウルス ウマノウ」ホブラ社 平成19年

- ◎開催期間/平成28年2月29日(日)まで
- ◎場所/教材文化資料館(附属図書館内)
- ◎開館時間/平日8:30～22:00、土曜・日曜・祝休日10:00～17:00
- ◎休館日/11月21日(土)、12月28日(日)～1月3日(日)、16日(土)、17日(日)、26日(土)、2月25日(土)、26日(日)
- ☎ 教材文化資料館 ☎ 0795-44-2362

募集

Seminaire Liaison VIII iPadを活用して 発達障害のある生徒の 学習意欲を高める! —中学校社会・英語科での クラス、グループ、個別学習—学教市

発達障害のある生徒への学習支援として、iPadなどのICT機器を活用することが注目されています。今回の公開講座では、クラスの授業場面などでiPadのアプリや自作の電子教科書を使用させると対象生徒のアクティブラーニングを促すこと、困った問題の低減につながることを具体的な事例を交えて紹介します。参加無料。

- ◎講師/坂田俊広さん(岐阜県多治見市立陶都中学校主幹教諭)
- ◎日時/11月7日(土)15:00～17:00
- ◎場所/神戸ハーバーランドキャンパス・兵教ホール
- ◎対象/特別支援教育に関心がある人、教育委員会・教育センターの指導主事、特別支援学校教員、小中高校の教員など
- ◎定員/80人
- ◎申し込み方法/
確定し次第、特別支援教育モデル研究開発室ホームページ
<http://www.hyogo-u.ac.jp/ssep/>で発表

第35回教育実践学フォーラム 「スマホ時代のリスクとスキル」

8月29日 大阪大学中之島センター

連合学校教育学研究科における情報発信や地域貢献を目的として毎年開催しているもので、今年度のメインテーマは「高度情報化社会の子どもたち」。ゲストスピーカーの兵庫県立大学環境人間学部の竹内和雄准教授は、LINEやネットでのトラブルや大規模調査の結果などを紹介し、「ケータイネイティブ」世代である小学生においてスマートフォンの問題がこれまで以上に懸念されると警告。その根本は心の問題であり、周囲の大人との相談できる関係の構築が重要であること、規則や管理などの他律的対策から子ども間での自律的対策にシフトすることの必要性などが強調されました。



第4回発達障がい支援 アドバンスド講座学教市

特別支援教育をリードする人材の育成を目指した研修講座です。午前中は「特別支援教育の今とこれから」(仮)と題した基調講演や前・現文部科学省特別支援教育調査官(発達障害)らによる鼎談、午後は通常学級をテーマにしたミニレクチャー、「特別支援教育の地域リーダーを求めて」をテーマにしたシンポジウムを開催します。参加無料。

- ◎日時/平成28年1月23日(土) 10:00～17:00
- ◎場所/神戸市産業振興センター3階・ハーバーホール
- ◎対象/特別支援教育に関心がある人、教育委員会・教育センターの指導主事、特別支援学校教員、小中高校の教員など
- ◎定員/350人
- ◎申し込み方法/
確定し次第、特別支援教育モデル研究開発室ホームページ
<http://www.hyogo-u.ac.jp/ssep/>で発表

☎ 特別支援教育モデル研究開発室
☎ 0795-44-2510 ☎ 0795-44-2511

【情報の対象】 学=学部生・大学院生 教=現職教員 市=一般市民

支援事業

平成27年度
課外プロジェクトが
決定 学

学生生活の一層の充実を図ることを目的に、大学院生、学部生が自主的に企画した取り組みに対し活動資金を支援する「課外プロジェクト」事業。今年度は7件の応募があり、下記5件に決まりました。各プロジェクトの内容に応じて20万円を上限に、物品等の購入、旅費、謝礼等に係る費用を援助します。なお、平成28(2016)年度の募集は来年4月に告知予定です。

【今年度採択の課外プロジェクト】※敬称略

HICプロジェクト

金井宏樹(学校教育学部学校教育系コース2年)

日本人学生と留学生、さらに留学生の親代わりのフレンドシップファミリーが交流を図り、異文化理解を深めるためのさまざまなイベントを開催する。

カンボジアの子どもたちとの交流を通して
世界を知ろう

—Second season—

牧山達雄(大学院修士課程行動開発系教育コース2年)

神戸市内の小学生を対象に、国際理解協力教育の出前授業を実施。カンボジア笑縁団体「Momojiro」の協力の下、日本とカンボジアの生活や教育環境の違いについて考えさせる。

兵教びかびか大作戦! 2015

柳井崇史(大学院専門職学位課程学校経営コース2年)

学校経営コース生34人が月1~2回、キャンパス内で美化活動を展開。学部生・大学院生にも参加を呼び掛け、現職教員学生がさまざまな相談に乗るなど学生間の交流の場とする。

おもしろく、ないならいっそ、おもしろく(仮)

菊地康介(大学院修士課程教育コミュニケーションコース1年)

「兵教大をどこまで面白くできるか」をテーマに、夕暮れ映画祭、フリーコーヒーなど多彩なイベントを学生や他大学の人も巻き込みながら開催する。

日本固有の生態系を守る

小川雄太(大学院専門職学位課程授業実践開発コース1年)

「日本固有の生態系を守る」をテーマに、加東市や近隣地域にある池沼の「今」の姿を明らかにし、地域への啓発活動を行う。

7月～9月の主な出来事

シンポジウム

「子育て・親育ちを促す支援の役割
～子育て支援活動の中での記録から～」

7月18日 神戸ハーバーランドキャンパス

文部科学省の特別経費を受けた「大学の機能強化としての就学前教育専門職(仮称)養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」の取り組みの一環として、子育て支援を中心とした地域社会連携における大学の役割について考えることを目的に開催。同事業の実施組織である就学前教育カリキュラム研究開発室長の名須川知子教授が企画趣旨を説明した後、同開発室の磯野久美子特命助教が提案発表を行いました。続いて、神戸常盤大学の上月素子教授と神戸大学大学院の伊藤篤教授からそれぞれ講義があり、最後に名須川教授による総括が行われました。当日は、大学教員、幼稚園教員、保育士など約50人が参加し、熱心に耳を傾けました。



特別支援教育モデル研究開発室
「Café LiaisonVI」

7月30日 附属図書館ライブラリーホール

対話を通して特別支援教育への理解を深めるイベント「Café Liaison」の6回目。「漢字テスト、あなたはどの採点しますか?—通常学級の特別支援教育と教科の内容を考える—」と題し、奈良学園大学の西辻正副副学長(前文部科学省主任視学官(国語担当))と特別支援教育コーディネーターの樋口一宗教授が対談。樋口教授は、発達障害のある子どもが書く漢字の特徴について解説し、西辻副学長は「字形」には多様性が認められており、指導場面や状況を踏まえつつ柔軟かつ寛容に評価することが重要であると話されました。本学の学部生、大学院生、教職員など約60人が参加し、「漢字に対する考え方が変わった。漢字を通じて教育の課題・問題点が見えた」等の感想が寄せられ、満足度の高い講演会となりました。





たけにし あこ
竹西亜古

生徒指導実践開発コース教授

集団の輪に入りにくい
児童生徒の
指導法を教えてください

児童生徒の関係性や集団適応性を適切に見極めるには、「一人でいられる力」という観点も重要です。現在、小学5年生を対象にネットワーク調査を行っています。その中で、恒常的に一人でいる子どもが存在します。

一見、集団の輪に入れない子なのですが、何をしていたかを聞くと「本を読んでいた」「絵を描いていた」などと答えます。中には「誘われたけど断った」という回答も。これらの児童はやりたいたいことに優先順位をつけ、自主的・自立的に行動を選択する力を持っています。

一方、一人でいられない児童も多数見受けられます。これらの児童は、つながること自体に力を注いでいるようです。表面的には集団になじんで良好

な関係性を保っているように見えても、つながることを最優先するがゆえに自分を持ってなくなっているとも考えられます。

一人でいられる力は自主性・自律性の現れであるため、この力を持つ子は必要に応じて人とつながることもできます。学校教育だけで育つものではありませんが、教員の働き掛けも重要です。

まずは教員自身が「つながることが良くて、一人でいることはいけない」という浅薄な価値観を捨てることです。つまり、今回のような質問を発しない教員になることです。

次に、本当の意味での集団、すなわち「生み出す機能を備えた集団」で子どもにもその機能を実感させることです。つながること自体ではなく、つながることによって仲間と成し遂げられる快感を体験させてください。そのためには目標設定が重要です。学級の全員が関心を持ち、一人残らず一心に達成したいものである必要があります。日常的な学級目標では難しいかもしれませんが、行事や特別活動を有効に利用しながら、教員それぞれに得意分野で力量を発揮してください。



キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

附属中学3年生の蟬川泰果君
日本ジュニアゴルフで2位タイに

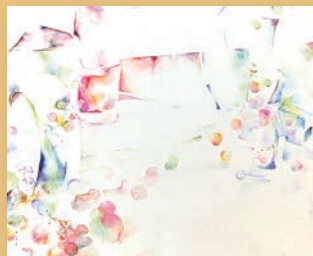


附属中学3年生の蟬川泰果君が、「2015年度(第21回)日本ジュニアゴルフ選手権競技」男子12歳~14歳の部(埼玉県の霞ヶ関カンツリー倶楽部:8月19日~21日開催)で2位タイに輝いた。同選手権競技は、日本ゴルフ協会が

催すジュニアゴルファーの日本一決定戦で、過去には名プレイヤーを輩出している。蟬川君は「体を鍛えて、来年度は優勝できるよう頑張りたい」と受賞の喜びを述べた。

修士課程の笹本しずかさんが
「2015県展」奨励賞受賞

8月、「2015県展」において、修士課程文化表現系教育コース(美術)2年生の笹本しずかさんが絵画部門で奨励賞(公益財団法人伊藤文化財団賞)を受賞。表彰式は8月22日に行われた。受賞作品について、笹本さんは「光がもたらす温かさや、懐かしさ、切なさを思いながら、色彩と余白との関係を考えて制作しました」とその思いを語った。



「記憶色」
透明水彩・水彩鉛筆
130cm×162cm

学部の岡崎紗佑美さんが
「第65回西宮市展」市長賞受賞



「corrosion」
アクリル画
162cm×162cm

7月、「第65回西宮市展」において、芸術系(美術)コース4年生の岡崎紗佑美さんが最高賞である市長賞を受賞した。受賞について、岡崎さんは「今回の作品では、将来への期待や不安などを表現しました。いろいろな方の支えがあって今回の賞を頂くことができました。今後も制作に励みたいと思います」と語った。



兵庫教育大学の 第3期中期目標期間の 「取組構想」

平成28(2016)年度から、国立大学法人の第3期中期目標期間の6年間が始まります。第2期において、兵庫教育大学は「ミッションの再定義」などを通じて、強みや特色を生かした改革を積極的に進めてきたところです。文科省は、第3期においてさらに改革を確実に進めるべく、各大学に「取組構想」の作成・提出を求めてきました。初めてのことです。

取組構想ではまず、国立大学経営の原資である運営費交付金に三つの重点支援の枠組みが設けられ、各大学はその中から一つを選択します。3枠組みとは、①地域貢献とともに特定分野で世界・全国的な教育研究を推進する大学、②地域貢献よりも特定分野で世界・全国的な教育研究を推進する大学、③世界的に卓越した教育研究を全学的に推進する大学です。

その上で、選択した重点支援の枠組みに応じたビジョン、ビジョンの実現に向けた具体的改革方針である戦略、戦略の実行に必要な具体的な取組、および取組の実施スケジュールを作成します。さらに、各戦略について評価指標を文科省提示の指標から選択して、また独自に設定します。

各大学提出の取組構想がそのまま採用されるわけではありません。文科省が有識者の意見を聞いて戦略や取組を選定し、選定結果に応じて重点支援分の運営費交付金を傾斜配分するとされています。

本学は、重点支援の枠組みは①を選択しました。本学の元来のビジョンが、「教師教育のトップランナーとして、教師教育の実践と研究における全国拠点並びに地域拠点となる」であることがその理由です。取組構想のビジョンには、この元来ビジョンに加えて、「教員養成の高度化に取り組み、『卓越教職大学院』となる」と記述しました。

戦略は4点にまとめ、それぞれについて複数の評価指標と取組(全部で10)を策定しました。本学の目指す姿の特色をもっともよく表している戦略の①と②を紹介します。

戦略①は「現職教員再教育型大学院(スーパースクールリーダー養成)の拠点形成」です。本学はミッションの再定義で、大学院における現職教員の再教育拠点と位置づけられました。第3期において、さらにその役割を高めるものです。

具体的には、市町村教育長や本号で紹介の「特別支援教育地域リーダー」などのスーパーリーダーの育成プログラムの開発と実施に新たに取り組めます。また、連合大学院博士課程の加盟大学を増やし、教職大学院等で指導できる大学教員の養成機能を拡充します。各プログラムの実施時期等を評価指標としました。

戦略②は「教職大学院を核とした教員養成高度化の推進」です。本学は最大規模の教職大学院を既有用意していますが、さらに教職大学院を拡充することで教員養成高度化の機能を強化するものです。

そのために、教科教育のカリキュラムの実践性を高め、修士課程教科教育分野を教職大学院に移行します。また、「教員養成高度化実践センター」を設置して、国公私立大学と連携した学部と大学院の5年一貫教員養成システムの開発に取り組めます。評価指標は教職大学院修了者の教員就職率100%、修士課程の教職大学院への移行スケジュールなどです。

かじさてつや
学長 加治佐哲也

兵庫教育大学 からの お知らせ



平成28年度 大学院学校教育研究科学生募集(11月選抜)

修士課程 ▶ 募集人員100人

◆人間発達教育専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	若干人
学校心理・発達健康教育コース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	5人
臨床心理学コース	昼間クラス	10人
	夜間クラス	10人
◆特別支援教育専攻		
障害科学コース		7人
特別支援教育コーディネーターコース		4人
◆教育内容・方法開発専攻		
認識形成系教育コース	社会系教育分野	昼間クラス 10人 夜間クラス 若干人
	自然系教育分野(数学、理科)	昼間クラス 8人 夜間クラス 若干人
文化表現系教育コース	言語系教育分野(国語、英語)	昼間クラス 12人 夜間クラス 若干人
	芸術系教育分野(音楽、美術)	昼間クラス 10人 夜間クラス 若干人
行動開発系教育コース	スポーツ健康系教育分野(保健体育)	昼間クラス 9人
	応用生活系教育分野(技術・家庭、工業、情報)	夜間クラス 若干人

専門職学位課程(教職大学院) ▶ 募集人員56人

◆教育実践高度化専攻		
学校経営コース	昼間クラス	6人
	夜間クラス	若干人
授業実践開発コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
生徒指導実践開発コース	昼間クラス	9人
	夜間クラス	若干人
小学校教員養成特別コース		15人
教育政策リーダーコース*		5人
グローバル化推進教育リーダーコース*		5人

- 昼間クラスと夜間クラスのあるコースは昼間開講制です。昼間クラスは加東キャンパス、夜間クラスは主に神戸ハーバーランドキャンパスで開講します
- 詳しくは平成28年度学生募集要項を確認してください

- ◎出願期間 10月15日(金)～23日(金)(必着) ◎合格者の発表 12月4日(金)10:00
- ◎試験日 11月21日(土)(筆記・口述)、※のコースのみ22日(日)(口述)
- ◎入試課 ☎ 0795・44・2067

平成28年度 園児・児童・生徒募集

附属幼稚園

◎募集人員

3年保育(3歳児)40人

2年保育(4歳児)20人

※平成28(2016)年4月1日時点での年齢

◎出願期間 10月26日(日)～30日(金)

◎選考結果発表、抽選日 11月28日(土)

◎附属小学校事務室

☎ 0795・40・2218

☎=問い合わせ先

附属小学校・中学校

◎公示日 10月30日(金)

◎附属小学校事務室

☎ 0795・40・2218

◎附属中学校事務室

☎ 0795・40・2224

第34回大学祭(嬉望祭)

今年のテーマは「Up to you～今を最高に楽しもう」。嬉望祭に協力、参加してくれたさまざまな人が最高に楽しめる学祭にしたいという願いを込めています。模擬店やクラブ発表をはじめ、「ダンス甲子園」「青年の主張」といった多彩な企画イベント、芸能人のステージやバンド演奏など盛りだくさんの内容です。

◎開催日 11月14日(土)、15日(日)

◎場所 加東キャンパス

◎学生支援課

☎ 0795・44・2050 ☎ 0795・44・2049

☒ office-gakusei-t@hyogo-u.ac.jp

附属中学校研究発表会

研究テーマ「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた、わかりやすく、やりがいのある授業づくり(2年次)」

◎開催日 11月7日(土)

◎場所 附属中学校

◎内容 基調提案、研究授業I・II、授業研究会、全体会、講演会

◎附属中学校(担当:大山)

☎ 0795・40・2222 ☎ 0795・40・2225

http://www.hyogo-u.ac.jp/middle/

附属幼稚園研究発表会

研究テーマ「協同性を育て道徳性・規範意識の芽生えを培う指導の在り方」

◎日時 12月5日(土)9:00～16:00

◎場所 附属幼稚園

◎内容 保育公開、研究協議、講演(講師:田園調布学園大学大学院人間学研究科の佐伯胖教授)

◎附属幼稚園(担当:白石)

☎ 0795・40・2227 ☎ 0795・40・2228

☒ kinder@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder/

附属小学校研究発表会

研究テーマ「『子ども文化教師』をつなぐ(3年次)」

◎開催日 28年1月30日(土)

◎場所 附属小学校

◎内容 授業公開、講演会、分科会

◎附属小学校(担当:森川)

☎ 0795・40・2216 ☎ 0795・40・2219

☒ element@hyogo-u.ac.jp

http://www.hyogo-u.ac.jp/element/

編集後記

★今号の「教育最前線」のテーマは「特別支援教育」です。教育者午線の読者アンケートで取り上げてほしいという要望が非常に多かったテーマです。それほど、皆さんの関心が高い教育現場の課題といえます。本学の特別支援教育専攻のスタッフを総動員して皆さんの疑問にお答えしています。今号が特別支援教育をより深く理解する場になれば幸いです。(つ)

★食欲の秋です。「データで見る兵教生」では「兵教生と昼食」を取り上げ、学内の食欲を誘うメニューを紹介してもらいました。紙幅の都合で紹介できませんでしたが、個人的にはYショップのカップ麺もお薦めです。(や)
※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください

◎あなたの声を聞かせてください

「教育者午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりを目指しています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方にオリジナルのボールペンまたは付箋紙を進呈します。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
兵庫教育大学
大学広報室
☎0795・44・2431
☎0795・44・2009
☒ office-koho@hyogo-u.ac.jp

October, 2015
vol.39

教育
子午線
Kyoiku-Shigosen

第39号 2015年10月発行
発行/国立大学法人
兵庫教育大学 大学広報室
http://www.hyogo-u.ac.jp
編集協力/ (株)神戸新聞総合印刷

兵庫教育大学モバイルサイト



スマートフォン

携帯電話

この印刷物は再生紙を使用しています。

